

京都大学 川池教授のご講演に関する質疑応答	
Q	A
内水ハザードマップがない地域ではどのような点に気をつければ良いでしょうか。例：自宅が窪田など	窪地など、周囲より標高が低くなっていて水が集まりやすい地形のところは、内水氾濫が起こりやすいところですので注意が必要です。近くに排水用のポンプ場があるような場所は、何らかの理由（排水先河川の水位上昇など）でポンプが運転できなくなることもありますので、やはり浸水するかもしれないと想像して備えておくべきかと思います。
内水氾濫が発生しやすい地形や気象にどんな特徴がありますか？	下水道の設計外力が、1時間に50～60mmの降雨量ですので、それを越えるような強さの雨だと内水氾濫が発生する危険性は増加します。周囲よりも低くなっていて水が集まりやすい地形や、堤防に囲まれた場所は、内水氾濫が発生しやすい地形条件を備えていることになります。
排水路から川の水が逆流して市街に水が溢れるのも内水氾濫と呼びますか。氾濫している水自体は川の水ですが堤防は決壊していません。	排水路や下水道から逆流して水があふれる場合は、確かに氾濫している水は川の水ですが「内水氾濫」と呼ぶことが多いです。

西日本旅客鉄道株式会社 中村様のご講演に関する質疑応答	
Q	A
JR西日本の計画運休の場合、被災の恐れがある場合の車両の高地移動及び復帰には運転者の移動等が伴うと思いますが、人数的な問題やリードタイムなどについては具体的にはどうなるのでしょうか？	人数的な問題やリードタイムを考慮し、ダイヤ改正ごとに避難用のダイヤを策定しております。計画運休となった場合、この避難用ダイヤに従って運用することとなります。

防衛省自衛隊 後藤様のご講演に関する質疑応答	
Q	A
災害現場での、自衛隊と、警察、消防の連携はどのように行われているのでしょうか。課題はありますか？	まず、現場に行く前に災害対策本部で活動地域や任務について調整されています。災害の状況にもよりますが、一般的に現場では、細部の任務と役割、活動地域、装備や輸送、患者輸送の手段等の確認・調整を実施して連携を取ります。（人命救助や捜索の場合であれば如何にして安全に早期に対処できるか。現場の状況にあわせて最良の連携を図るようにします。） 現時点で任務に支障をきたすような大きな課題は、特にありません。過去の災害現場における教訓を活かし、合同の訓練等により連携を図ったり、問題点を解消しております。